

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2690600172		
法人名	株式会社アマタ		
事業所名	グループホーム カノンしもがも		
所在地	京都市左京区下鴨松ノ木町64-50		
自己評価作成日	2016/11/29	評価結果市町村受理日	平成29年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会		
所在地	〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が負担にならないよう、穏やかな時間を過ごしていただくことを念頭に、自立されている部分についてはその状態を維持していただくよう、さらに得意なこと、共同生活での役割等を職員が認識しながら、日々の生活の中に取り入れ、取り組んでいただく(例:菓子作り、洗濯、片付け、買い物等を一緒に)点。
また、併設事業所の看護師と密に連携し、日々の健康状態の変化についても重点をおいている点。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「カノンしもがも」は下鴨地域における初めてのグループホーム(以下ホームと言う)として、「この地で一生の住まいを」との思いの下に、28年3月に創設されました。建物は、表通りから一筋入った住宅街に周りの家並に溶け込むように建っています。当該事業所代表は住職で、これまで地元の自主防災会等で貢献され、地域住民とは馴染みの関係にあり、地域からの協力も得て運営に活かされています。利用者は地域行事に参加し、近隣の幼稚園を訪ねたり、園児やご近所の赤ちゃんの来訪を楽しみにされています。地域住民や家族のボランティア参加も、開設から日が浅いにもかかわらず多くの相互交流が始まっています。一方、防災関連において、地域との協働が容易でない例を多く耳にします。しかし当該事業所の運営推進会議メンバーの防災に関する地域に密着した多くの助言や情報提供に、地域の意識の高さを実感しました。最後に、家族の面会が多いのも当ホームの特色です。利用者の表情もあかるく、ホームの今後の発展が期待できます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「慈悲の心」を理念に掲げ、地域に愛着をもって生活されている皆様との交流を通し、安心してこの施設にて生活できるよう、防災訓練など実施している。	「仏教の慈悲と共生の精神」のもと「住み慣れた地域で最後まで過ごしたい」という利用者の思いを実現し、職員は仏様に仕えるような気持ちで支援されている。玄関には利用者が書かれた理念が額に入れ壁に掛けられている。利用者や職員が毎朝眺め、感謝の気持ちや言葉が交わされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の豆腐屋さん、コンビニで入居者様と共に買い物、周辺散歩、地藏盆への参加、また、事業所で開催のイベントへ地域の方をご招待している。	消防団とは親交もあり、地元の防災ボランティアとも関係ができています。日常的には赤ちゃん連れの親子や近所の子供たちの来訪を楽しみ、近隣の幼稚園との交流や、家族・地元住民による演奏・調理等のボランティア活動も定着化しつつある。すこやかサロンについては所内に場所もあり、運営推進会議に議題にも上がり事業所は情報収集に努め、地域との関係作りへの関心は盛んである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の話し合いの中で、老人福祉委員の方にも参加いただき、認知症についての意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の行事への参加。他の事業所の取り組みを参考にしながら、当事業所にも取り入れている。	会議は利用者・家族・下鴨社会福祉協議会・民生児童委員・老人福祉員・グループホーム連携医・地域包括支援センターがメンバーとして参加されている。出席者は活発に質問・意見・助言・情報提供・感想などを述べ、事業所も熱心に耳を傾け、加湿器の購入、備蓄庫の確保他多く取り入れ意見が反映されている。	内容豊富な会議であり、利用者の家族にも議事録を供覧又は、配布され情報を共有されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢サポートの管理者様には、毎回運営推進会議に参加いただいている。	左京事業所連絡会などに参加し、行政担当者との関係もできている。当事業所の代表は長年地域活動に携わってこられており、役所との一定の関係は構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての内部研修の実施している。また、帰宅されたいと言われる入居者様には、一緒にドライブに行くなど気分転換をしていただきながら、活動を制限しないような工夫をしてケアにあたっている。	身体拘束はしないことを事業所として前提とし、マニュアルは作成され、勉強会等を行い職員に理解と周知を図っている。徘徊が懸念される利用者には、エレベーターに「故障中」という紙を貼るといった妙案を講じたり工夫されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の内部研修を実施している。入浴時、身体的な傷等がないか注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方は現在ございませんが、今後必要に応じ研修を実施していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書に記載の苦情相談窓口について十分説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱を事業所玄関に設置している。また、ご家族様にも運営推進会議に参加いただいている。	家族の面会は最低でも週一回と多い。玄関に家族を見かけると、管理者は声をかけ会話を交わすようにされている。家族から日頃の様子をとの要望に、新聞を作成し写真を載せたり、筋力維持をとの要望に個別リハビリを導入し記録をとり報告している。希望・要望は可能ならば運営推進会議に参加いただき意見交換が出来たらと前向きに受け止めようとしている。	職員には話しづらい隠れたニーズを引き出すために、記入者が特定されない工夫の下、年に1回程度アンケートを取られてはいかがでしょうか。結果は家族に公表することで、公明性も図れるのではと思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	マネジメントMTGを週1回開催し、職員からの意見、提案や、事業所内での課題等を議題として掲げ、運営に反映している。	開設後経験も浅いため、先行の事業所に研修を依頼し、広い視野で施設運営等が理解できる職員の育成に努めている。ケアカンファレンス、スタッフミーティングで職員の意見を聞き、参加できない職員には意見を提出させている。勤務面の手当に関する就業規則の変更や介護機器の導入など職員の意見を受け止め運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設1年目ではありますが、試行錯誤の上、職員からの意見、介護業界での成功事例などを研究し、社内規程を改定しながら、職員定着率の向上を図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者からの報告、職員との面談、日報等を通し、職員一人ひとりの介護技術や、将来への希望を確認し、社内外の研修参加(会社費用負担)を積極的に進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着協議会に加入し、管理者、介護職員とともに個々の目標・課題をもって参加している。12月には、他のグループホームでの実習に、常勤職員全員が参加する予定である。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画作成担当者が入所前に面談を実施している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成担当者が入所前に面談を実施している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ショートステイ先から即時入居を希望された場合は、併設の看護小規模多機能型サービスを一旦ご利用いただき、ADLの確認等を行った上で、グループホーム職員への情報共有、引継ぎを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と一緒に洗濯物を干したり、たたんだり、茶碗等食器類の洗い物、片づけを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へ事業所行事への参加の声かけをさせていただいたり、ご家族がコンサートを開催される時には、他の入居者様、職員と一緒に参加させて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居後も馴染みの場所に行かれたり、関係のある方々との交流は続いている。	長年通われていた教会に、従来通り身なりを整え、家族の協力も得て礼拝を継続されている方、元の住まいに近い商店での買い物希望される利用者に職員が同行し対応されている方もある。家族や知人が来訪された時は居室またはフロアで、希望あればお茶等を接待し、くつろげる時間が持てるよう配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	他の入居者様との交流が円滑に行くよう に、職員が間に入って関わったり、入居者様 同士声掛けあったり、互いに助け合うような 関わり合いが見られる。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された方、自宅に戻られた方に対して、 必要に応じて相談にのりますと伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	介護計画見直しの際、希望、意向を確認し、 計画に反映できるよう努めている。	ナーシングケアという特色を打ち出し、看護面 での手厚いケアを家族も希望されていることも あり、医療情報はしっかり情報収集され プランに生かされている。一人ひとりの利用 者には担当職員を決め、利用者の思いや希 望を聞き、実現に努めておられる。しかし 収集された生活面の情報がアセスメント表 に記載や追記が必ずしもされていない。	日々の記録は、本人の言葉やしぐさ等、 しっかり記載されているため、これをアセ スメント表に追記しプランに盛り込めるよ うな方策を考えていかれてはいかがでし ょう。プランが独自性のあるものとなっ て、その人らしい生活を支援する助けに なるのではと提案させていただきます。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に 努めている	フェイスシートやご本人、ご家族からの情報 で、一人ひとりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	ケア記録に記入し、心身の状態、また、日々 の生活の状況を観察し、有する力について も把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し 合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現 状に即した介護計画を作成している	ご家族が来所されたときは、ご希望、思いを 傾聴し、毎月計画の評価を行っている。	計画作成者、看護師、介護士、医師等がカン ファレンスにてケアの方針を話し合っている。 現段階では、ケアプラン作成を年間の内部研 修に組み込み、職員全員で学べるよう取り 組まれているところである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫 を個別記録に記入し、職員間で情報を共有し ながら実践や介護計画の見直しに活かしてい る	日々の関わりの中から気づき等を記入し、 意見を出し合って介護計画の見直しにつな げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出希望が強い時、併設事業所の職員の応援をえて外出可能になるよう支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎週通われていた教会、近所のスーパーでの買い物等、馴染みの生活を継続できるような関りを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族のご希望に合わせて、かかりつけ医との関係を継続できるよう、これまで同様の適切な医療を受けられるよう支援している。	在宅時からの主治医を継続されている利用者は3名、協力医療機関の医師を主治医に替えられた利用者は6名である。内3名が往診を受けている。定期受診には、家族が同行されている。連携医療機関や地域医療機関とは、連携を心がけ支援に活かされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日健康チェックを行っている。体調に異変がある場合は、併設事業所看護師に連絡し、訪室している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	連携医療機関、地域の医療機関へは定期的にご挨拶に伺い、連携を図っている。入院時はご家族到着まで付き添い、入院期間中は、2週に1回面会に伺い、その際病院関係者と連絡をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調に変化が見られた際、その後の定期受診に同行し、かかりつけ医との連携を重視している。どういったターミナル期を迎えたいか家族間の話し合いを勧めている。	看取りに関する指針が設けられ、研修も全職員が受けている。現段階で、ホームでの対応事例はない。利用者が多く体調が安定し、家族との間で話題に挙がることはあるが、今後の取り組み課題となっている。各関係医療機関とは、365日24時間の連携体制は確保されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急措置、AED、消化機器の操作、消防訓練の講習を実施した。		

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に来ていただき、消火訓練、地域の防災訓練に入居者様と参加したり、地域の防災ボランティア会議に参加している。	夜間想定を含め、避難訓練は実施されている。地域の防災訓練に参加し、指定の避難先への避難を利用者と体験し、課題の把握と多くの気づきを得たことを運営推進会議で報告がされている。この報告に対し、委員から地域に密着した具体的な大小交えた助言、情報提供が提起され、事業所として多くのヒントを得て、可能なところから取り組む姿勢で臨まれている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員への敬語の使用を強制していないが、ていがない言葉で話しかけるように徹底している。	関連研修は権利擁護、虐待、接遇・マナーが職員全員に実施されている。居室入室時には、必ず声掛けをして入室の許可を得ている。カノン新聞に名前や写真が載るときには個別に説明し同意書をもっている。利用者に対する言葉かけは丁寧に対応されている。	当日の留意事項をホワイトボードに記載し、職員間の周知に取り組まれている。しかし廊下から見えるところにあり、来客や利用者に見えないような工夫を望みたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、室内レクリエーションともに、ご本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	消灯時間や面会時間(20時まで)、食後の休息の声かけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の際は、コートや帽子を着用し、ミニコンサートの時には、コサージュをつけるなど、身だしなみの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸を配っていただいたり、食後の食器拭きを手伝っていただいたり、朝食のパンを職員と一緒に選んだりできるよう、色々な方法を模索している。	献立は調理師が決め、厨房で調理したものを提供されている。朝食のおかずは利用者の意向を聞きキッチンで職員が調理している。食器は陶器が使われている。茶碗や湯呑は本人の希望があれば持ち込み使用されている。安全面を考慮して配膳、下膳は目下職員が支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量のチェックを行っている。食事量、水分量が少ない時は、食事担当職員が中心になって食べやすい食事や水分を工夫している。		

京都府 グループホーム カノンしもがも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	2週に1回訪問歯科診療に来ていただいている。入所したばかりで、口臭や口腔内の汚れが目立つ方には家族と相談し、口腔ケアを受けていただくきっかけにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1日1日便器に座り、排便を促す援助を行っている。	ほとんどの方が自立されているが状態に応じ声掛け誘導している。便は排泄表によって把握し、必要に応じて看護師が対応している。紙パンツから布パンツに改善された方もおられ、ほとんどの方が布パンツを利用されている。夜間はポータブルトイレを使用される方もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がみられれば、水分チェックを行い、補水意識を高める話し合いを実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や人数は決めているが、拒否があったり、行事や体調で入浴できない時は振り返る工夫をしている。	入浴は週二回を原則としている。今まで午前中に3人に対応していたが、ゆっくりと入浴するため、朝・昼・夕に一人ずつ入浴時間が取れないか、目下検討中である。異性介助は了解を得て行っている。二人介助が必要な場合は、職員が途中から加わるのではなく最初からかわるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間戸を開けてほしいといった要望、少しも明かりを入れないでほしいといった要望など、個々の要望に応えるよう取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報誌を保管し、訪問診療時、主治医と一緒に体調について相談できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌や手芸、書道など個々の楽しみを生かしたレクリエーションや取り組みを行っている。		

京都府 グループホーム カノンしもがも

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	動物園、植物園に出かけている。ご家族の支援で毎週教会に行かれたり、法事に参列されている。	散歩に出かけ紅葉の葉を拾ってきたり、花を買いに行ったりしている。近くの幼稚園にも歩いて出かけ子供たちと過されることもある。下鴨神社には車いすを使用し、御火たき等の行事にも参加している。外食ではマクドナルドや寿司屋に行き喜ばれている。利用者一人ひとりが町内会に加入しているため、敬老会や地藏盆に招かれ、出かけることも多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	レクリエーションで外出の際は、個別の財布を持参されている。コンビニには財布をもっていかれる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話をお持ちの方もいる。12月は年賀状の準備をされている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日職員が掃除を行い、清潔を保持している。	玄関前には通りに面し折りたたみ椅子が置かれている。道路を挟んだお向かいの庭を見ながら座ることもできる。中庭にはメダカが買われている。折り畳みパラソルのあるおしゃれなテーブルセットが設置されくつろぎのスペースとなっている。リビングは窓が多く、照明も明るい。ソファは高低二種類あり使い分けがされている。床暖房のため裸足で歩いても温かい。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	高さの違う広めのソファを2つおいてくつろげる空間にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に選んでいただいた物品等を持ち込んでいただいている。	居室にはベッド、ダンス、応接セットなど好みの物が持ち込まれている。テレビを置いておられる方もある。カーテンは用意されているが自分で気に入ったものに変えても構わない。位牌や遺影などの持ち込みも自由である。季節ごとに衣替えが家族によりされているため、部屋はすっきりと片付いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	警報装置は、誤って押してしまわれた事もあり、現在はそのようなことが起こらないように覆っている。		